

記録表 発行日	2019年9月5日	検印
注番	U -	

高所作業車 CJ受入36項目検品表


中京重機株式会社
 ☎ 465-0057 愛知県名古屋市長区陸前町1705
 サービス部 フィールドサービスグループ
 TEL : 052-701-5191 / Fax : 052-701-5193

メーカー名	長野工業	型式	NUL090-2	機械所有者	様			
製造(シリアル)番号	9NU368	アワメーター	6471Hr	検査年月日	2019年9月4日(水)			
エンジン型式	3LD1	検査者名	筑摩	検査実施場所	(本社内) 日進ヤード ()			
エンジンシリアル		特自検	特自検ステッカー 有・無 / 点検日 年 月 / 点検者					
区分	No.	検査箇所	検査内容	検査方法	評価	備考		
エンジン	1	本体	a. 始動/停止性	かかり具合、異音、予熱栓・ヒーターの作動、ソレノイド	目視 or 操作 or 聴診	A B (C) D E		
			b. 回転の状態	アクセルの作動、回転具合		A B (C) D E	リアシール油漏れ	
			c. 排気の状態	排気色、排気音、吹き返し、マフラー外観の欠陥によるガス漏れなど		A B (C) D E		
			d. ブローパイ	オイル漏れ具合、ブローパイホース、フィルター		A B C D E		
			e. エアークリーナー	ケースの亀裂、変形、エレメントの汚れ、損傷		A (B) C D E		
			f. 過給機(ターボ)	異常振動、ガス漏れ、潤滑油漏れ		A B C D E		
			g. エンジン圧縮	エンジン内部コンプレッション圧計測		測定器を使用して 測定	A B C D E	3.1Mpa
			h. 背圧	ブローパイ量の計測		測定器を使用して 計測	A B C D E	L/min
	2	潤滑装置	油量、汚れ、白濁、油漏れ、エレメントの汚れ(滲み)、損傷	目視	A B (C) D E	ゲージ		
	3	燃料装置	燃料滲み漏れ、詰まり	目視 or 触診	A B (C) D E			
	4	燃料タンク	ドレンコックから水抜き実行、燃料の汚れ具合	目視	A B (C) D E			
	5	燃料油種	(軽油) ・ 灯油 ・ A重油 ・ 茶灯油	目視 or 嗅診	A B C D E			
	6	冷却装置	a. クーラント	水量、濃度、汚れ (サブタンク水量: 満・中・少・無)	目視 or 触診	A B (C) D E	クーラント濃度 -40℃	
			b. 水漏れ	ウォーターホース、ドレンバルブ、キャップ機能チェック		A B (C) D E		
c. ラジエータ			外側コア(フィン)の目詰まり、汚れ、凹み、水漏れ	A B (C) D E				
d. オイルクーラー			外側コア(フィン)の目詰まり、汚れ、凹み、オイル漏れ	A B (C) D E				
e. ベルト/ウォーターポンプ			たわみ、摩耗、損傷、ガタの有無と程度	A B C (D) E		ベルト劣化		
f. 水温計			正常(適温)表示	良 不良				
g. その他			ファンカバーやダクトの亀裂有無・損傷及び変形など	A B (C) D E				
7	電気装置	オルタネータ機能、バッテリー液量、ターミナル緩み、腐食	目視 or 触診 or 電圧計	A B C D E	電圧 約14.3V(ボルト)			
		充電装置の確認、コンセントタップの状態	充電の実行	A B C D E				
		搭載バッテリー型式 ⇒ [115D31R]	目視	A B C D E				
走行装置	8	走行コントロール	前後発進停止、左右操舵	操作	A B (C) D E			
	9	可変脚機能 [有・無]	作動状態、ガタの有無	目視 or 操作	A B C D E			
	10	起動輪 ・ 遊動輪	クラック、変形、摩耗、異音、異常発熱、取付ガタ、油漏れ	目視 or 触診 or 聴診 or 探傷剤	A B (C) D E			
	11	上部ローラー ・ 下部ローラー	クラック、変形、摩耗、異音、異常発熱、取付ガタ	目視 or 触診	A B (C) D E			
	12	履帯	(ゴム)	欠け、劣化、摩耗、亀裂傷、ステールコード切断、損傷、心金脱落、たわみ	目視 or 触診	A B C (D) E	ゴムキヤタ損傷有り	
			鉄 / PAD	(シュー)クラック、変形、摩耗、シューホルト・ナット取付緩み、リンク・フッククラック/欠け、ピッチ伸び、たわみ、固着				
	13	履帯調整装置	作動、調整ボルト損傷、変形、腐食、摩耗、シリンドラー油漏れ	目視 or 操作 or 探傷剤	A B (C) D E			
14	走行減速機	油量、異音、異常発熱、ケースクラック、損傷、油漏れ※減速機の油量チェックは必須の事	目視 or 聴診 or 触診	A B (C) D E				
作業装置	15	ブーム、アーム、バケット	クラック、変形、摩耗、ガタつき、取付、ピンシール損傷	目視 or 触診 or 探傷剤	A B (C) D E			
	16	シザーズ、マスト	クラック、変形、摩耗、ガタつき、取付、ピンシール損傷	目視 or 触診 or 探傷剤	A B (C) D E			
	17	バルブ関連	バケット水平バルブ、非常降下バルブ、	操作実施、油漏れ点検	A B C (D) E	滲み		
	18	旋回装置	クラック、変形、摩耗、ガタつき、取付、外止機能、損傷	目視 or 触診 or 探傷剤	A B (C) D E			
油圧装置	19	作動油タンク	残油量 (適量) ・ 中 ・ 少 ・ 無)、ゲージの汚れ	目視	A B (C) D E			
	20	配管類(高・低圧油圧ホース・パイプ)	クラック/亀裂、劣化、損傷、ひび割れ、油漏れ、フック/ボルト	目視	A B C (D) E	滲み		
	21	コントロールバルブ	油漏れ、異音	目視 or 聴診 or 触診	A B C D E	滲み		
	22	油圧メインポンプ	油漏れ、異常振動、異音、異常発熱、吐出異常	目視 or 聴診 or 触診	A B C (D) E	シャフト滲み		
	23	油圧シリンドラー	ブームシリンドラー	自然沈下、油漏れ(滲み)、伸縮不良、サビ、傷、曲がり	目視 or 操作	A B C D (E)	漏れ	
			マスト、シザーズ	自然沈下、油漏れ(滲み)、伸縮不良、サビ、傷、曲がり	目視 or 操作	A B (C) D E		
操作	25	レバー、ペダル、スイッチ関連	全動作確認	操作	A B (C) D E			

区分	No.	検査箇所	検査内容	検査方法	評価	備考
安全装置・車体関係等	26	—座席(調整機構、座面、背もたれ)—	座席調整、ロック作動、取付ガタ、損傷、穴あき	目視 or 操作	A B C D E	
	27	—昇降設備—	亀裂、損傷、変形、取付ガタ	目視	A B C D E	
	28	—灯火装置、警報器、ワイパー—	作動状態、取付ガタ、レンズ破損、浸水	目視 or 操作	A B C D E	
	29	計器類	作動状態、取付ガタ、レンズ破損	目視 or 操作	A B (C) D E	
	30	セキュリティ [有 ・ 無]	イモビライザー、電子Key、隠しスイッチ、パスワードなど	操作	有 (無)	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
	31	—反射鏡、後写鏡—	汚れ、損傷、破損	目視	A B C D E	
	32	給油脂	給油脂状態、自動給脂装置作動	目視 or 操作	A B (C) D E	
	33	—キャブロー、キャブ(ガラス)—	亀裂、変形、腐食、雨漏り、ドア開閉、ロック、キー作動、ガラスのガタつき、破損	目視 or 操作	A B C D E	
	34	レバー、ペダル	効き、操作、変形、損傷、はずれ	目視 or 操作	A B (C) D E	
	35	旋回減速機	異音、異常発熱、油量、汚れ、油漏れ、取付ガタ	目視 or 聴診 or 触診 or 操作	A B (C) D E	
36	旋回ベアリング	引っ掛かり、異音、ギア異音、シール損傷、油漏れ	目視 or 操作 or 聴診	A B (C) D E		

実機機械状態から具体的な検査結果報告(特記事項がなければ未記入で可)を記載の事

No.1	
No.2	リアシール油漏れ
No.3	
No.4	
No.5	
No.6	ベルト劣化
No.7	
No.8	
No.9	
No.10	
No.11	
No.12	ゴムキヤタ切れ
No.13	
No.14	
No.15	
No.16	
No.17	しみ
No.18	
No.19	
No.20	しみ
No.21	しみ
No.22	シャフトしみ
No.23	第2ブームシリンダ2ヶオイル漏れ
No.24	
No.25	
No.26	
No.27	
No.28	
No.29	
No.30	
No.31	
No.32	
No.33	
No.34	
No.35	
No.36	

備考 1. 検査方法欄に実施した内容を○で囲み、5段階評価の中で該当する程度・状態を○で囲む。
2. 検査結果に異常があった場合には、右頁の該当番号欄へ具体的な不具合結果を記入の事。

概要評価基準	個別評価基準(残存率による評価の場合は%を参照)
A: 新品に近く非常に良好な状態の場合	A: 新品に近く非常に良好な状態の場合 / 100~90%
B: 摩耗・損傷が少なく良好な状態の場合	B: 摩耗・損傷が少なく良好な状態の場合 / 90~70%
C: 稼働時間相当の摩耗・損傷があるが、継続使用が可能な状態の場合	C: 稼働時間相当の摩耗・損傷があるが、継続使用が可能な状態の場合 / 70~40%
D: 稼働はするが修理が必要な状態の場合	D: 稼働はするが修理が必要な状態の場合 / 40~20%
E: 即修理をしないと稼働しない状態の場合	E: 即修理をしないと稼働しない状態の場合 / 20~0%